

3市議選

自立った低い投票率

知名度不足の新人苦戦

湘南地域で24日投票された藤沢、茅ヶ崎、平塚市議選は軒並み記録的に低い投票率となった。震災後の選挙戦とあって、自粛ムードを引きずった。実績のある現職が強く、知名度の低い新人は特に苦戦が強いとされた。

(湘南総局)

「正直、空中戦でしたよ。自粛とかいってられない。マイナスからのスタートでしたから」。県議選の結果を受けて、滑り込みで藤沢市議選への出馬を決めた、みんなの党の新人の友田宗也さん(34)。多くの候補者

が名前の連呼や、住宅街での街宣を控える中、友田さんは遅れを取り戻そうと「団地の前でも遊説させてもらい、思いを伝えた」。躊躇しないスタイルが奏功し当選を決めた。

藤沢市議選の投票率は38・15%と過去最低を約3割も下回る低さで、落選した7人はすべて新人だった。茅ヶ崎市議選も投票率は、過去2番目の低さとなる46・57%(前回比2・49%減)。落選した9人のうち7人が新人だった。

初めて5割を割り込み、過去最低を更新した平塚市議選の投票率は49・88%。定数30に対し候補者が前回より6人減の34人にとどまったことも低調の要因に挙げられそうだ。

停滞ムードの中でも得票を伸ばしたのが3期目を目指した無所属の江口友子さん(35)。闘病しながらも政治活動を続け、平塚市議選で過去最高となる7208票を獲得しトップ当選し



新人が苦戦した藤沢市議選で、議席を獲得したみんなの党の新人候補者(中央右) 藤沢市辻堂1丁目のJR辻堂駅北口

た。落選した4人のうち新人は3人を占めたが、大量得票で議会に臨む20代の新人2人もいる。

今後の議会 どうなる？

市議選の結果を受け、藤沢、茅ヶ崎、平塚の3市議会では新たな展開も予想される。各議会の今後を探った。

【藤沢市議会】

土地取得問題 再燃の公算大

民主、自民、公明は候補者全員が議席を獲得。共産は4人が立ち3人が当選した。4人が立候補したみんなは2人が議席を得た。神奈川ネットは1、社民は1議席をそれぞれ獲得した。

今後は、市会を賛否二分した「土地取得問題」が再燃する公算が大きい。来年

ジェイコム湘南 ☎(0120) 999000 湘南プレミアム(土曜午後3時ほか)開局15周年を迎えたコミュニティFM局「レディオ湘南」を紹介！ 歴史や春の新番組、裏舞台をレポートします。

JCN鎌倉 ☎0467 (44)8787 7デイズデイリー(月~金曜午後5時10分、6時ほか)鎌倉・逗子ならではの伝統行事やイベントなど地域の情報がいち早くわかる番組です。

湘南ケーブル ☎0463